

## ■立候補届

氏名	加藤 良太	立候補する 役職名	全国協議会委員		
住所 市区町村まで	京都府京都市	性自認による 自己申告の姓	男	年齢	37
肩書き 二つまで	特定非営利活動法人 関西 NGO 協議会 提言専門委員 「緑」の京都・準備会 共同世話人				
主な 活動テーマ	市民・NGO による国際協力活動 公共政策へのアドボカシー活動				
立候補の 抱負	<p>3・11の堪え難い痛みを通じて、私達の生き方や価値観は、大きな転換を迫られています。震災・原発事故という未曾有の災害は、私達が「先進国・日本」という誇りと虚栄の陰で「見えないこと」にしてきた、日本社会の歪みや格差、差別を浮き彫りにしました。被災ばかりが理由ではありません。支援、復興活動すらも、それに携わる人々の満足感とは対照的に、東北の人々に「被援助者の惨めさ」「差別されている思い」を味わわせ続けています。貧しい地域に原発を立地し、経済成長の陰で地域や人々をないがしろにしてきた構図を今、災害の結果として私達は見せつけられているのです。</p> <p>私は長年、日本政府のODAに対し、途上国の地域の人々と寄り添いながら政策過程を透明化・参加型に変え、彼らの視点や声を踏まえた政策形成がなされるよう活動してきました。確かに、NGOが専門家に徹し、行政と仲良く「協働」して政策案を出せば、一定の成果は期待できます。しかし、地域や人々の声が届かない政策過程をそのままにしては、NGOすらも権力に取り込まれ、いずれは地域や人々の声から乖離してしまいます。私は、こうした「参加民主主義の徹底化」はNGOと政治の両面からの活動が必要だと思い、「みどり」にその場所を求めました。</p> <p>私が住み、活動する京都は、市民運動の伝統と基盤がある土地柄であり、かつ、この間の原発再稼働の動きの中で、大都市圏にある被害地元として、図らずも日本中の脱原発運動の中心の一つとなりました。そこでは「みどり」の活動につながる多くの仲間との出会いとともに、福島や若狭の人々の痛みとも直面してきました。私は、その「痛み」を感じることができる立場だからこそ、全国協議会委員として、その人々に寄り添う「みどり」の運営の一端を担う資格と責任があると感じています。どうぞ一緒に、地域の痛む人々と声に寄り添う「みどり」の政治を実現しましょう。</p>				
推薦者	お名前	ご住所（市区町村まで）			
	藤田敏彦	京都府京都市			
	南俊二	京都府京都市			
	五十嵐守	京都府京都市			
	杉山廣行	京都府京都市			
	脇文香	京都府京都市			
	山口龍児	大阪府吹田市			

## 【推薦状】

京都市在住の加藤良太さんを全国協議会委員に推薦します。

彼は地元の「緑」の京都・準備会において共に活動しております。

その準備会の運営において彼の存在は不可欠であり、NGO活動を通じての幅広い見識とそのネットワーク、問題解決能力、現実の行動力は特筆されるものがあります。

これまでの彼のNGO活動における政策提言能力は、今後の「(仮)緑の党」の運営上においても必ずや役立ち、必要とされることを確信しております。

年齢的にも若者と壮年層の双方の視点から考え行動し、偏ることなく「(仮)緑の党」の未来を見つめて行動できる適任者であると考えます。

是非とも加藤さんが全国協議会委員の一人として最大限の力を発揮できますことを、切に希望いたします。

2012年7月10日 藤田敏彦

加藤さんを全国協議会委員に推薦いたします。

『加藤さんと知り合ったのは、2005年に京都で開催された「アジア・太平洋みどりの会議」ででした。

その時の加藤さんのスタイル、話し方、考え方、立ち居地の確かさから髪型の型まで、新鮮な驚きを持ったことを今でもよく覚えています。

そして、この会議に参加し、加藤さんを始多くの方たちと共に取り組んだことにより、ずいぶんといろんなことを学んだと思っています。

当時、私はすでに十分年を取っており、職場といえばストライキ、街頭といえばデモ、を典型とした考え・スタイルを引きずっていました。悪いとは思っていませんでしたが。

熱帯雨林の破壊問題を契機に関わることになった環境問題を経験していたため、みどりの会議にも参加できたのですが、まあ、その程度だったのです。

加藤さんは政党政治活動に関して、少し距離をとっておられる印象を持っていましたので、この春、「緑」の京都・準備会の共同代表を引き受けられた時は、とてもうれしく喜んだものです。

その加藤さんが全国協議会委員に立候補される決心をされたのは、これからの「緑」の政治の前進にとって素敵なことだと思います。

蛇足ながら、加藤さんの政策構想立案能力はすばらしいものであるということは保障します。』

以上です。

2012年7月12日 南俊二

加藤良太さんを「緑の党」(仮称)全国協議会委員に推薦します。

加藤さんは、2004年の「みどりの会議」選挙以降、「緑の党」の結成にむけて活動を続けて来ました。

その活動は必ずしも「京都地域」に限定されず、また、特定の課題に絞られるものでもなく、広く、政策決定の場に、市民が参加できる可能性を追求するものだったと理解しています。

結成される「緑の党」(仮称)にとって、これまで加藤さんが蓄積してきた様々な政策的立場や方法論が、必ずや役立つと確信しています。

また、準備会から共同代表の一人として推薦されている長谷川さんが、全国的な「党の顔」としての振る舞いが求められる時、加藤さんは「京都の顔」として、全国の仲間との繋ぎ役を果たしてもらわなくてはなりません。この冬以降、京都で「準備会」活動を献身的に担ってきた加藤さんであれば、その任をりっぱに務めることができると確信しています。

総会に御参加された皆さんに、加藤良太さんへの清き一票を、心よりお願いいたします。

2012年7月13日 五十嵐守

加藤良太さんを全国協議会委員に推薦します。

彼は「緑の会議」から「みどりのテーブル」そして「みどりの未来」と京都において活躍されてきました。

ご自身はこれまで市民・NGOによる国際協力活動などで活躍され、その経験などを通じての政策提言などを積極的な活動をされてきております。

また海外のODA問題などの知見から経済援助の在り方やNGOの役割などについて今後の海外援助の在り方などを政策的に支える役割と、今後、予想される「緑のシンクタンク」創設にも、人脈を生かしNGOや知識人などへのパイプ役としての活躍が期待できる人材と考えられます。

地域での若者を中心とした組織運営や企画立案などのコーディネータとしての役割などの期待と全国協議会での彼の能力を皆さんと共に発揮していただきたく推薦いたします。

2012年7月8日 杉山廣行

加藤さんは交友関係が広く、さまざまな職種を経験されていて、物事に対する幅広い興味のある、視野の広い方です。さまざまな意見を受け止め、相手を理解しながら話をしたり、グループの調和をしてくれる人です。

私が「若い人たちにもっと政治に関心を持ってもらいたい、気軽に政治について話せるような場所がほしい」という話をしたところ、「グリーンズカフェ」のようなものがあればどうかと提案してくれたのは加藤さんでした。そして先日、京都でグリーンズカフェの企画の設定をしてくれたのも加藤さんでした。グリーンズカフェとは、喫茶店の一角を借りて、緑の党のメンバーが待機している。そこに政治的な話をしたい人たちに気軽に来てもらって、話をする、というようなものです。私は、この提案を聞いたときに、まさしく私がやりたかったもの、あればいいなあと思っていたものだと思いました。若者で「政治についてよく分からないけれど、知りたい。話したい。」という人は、実は多いと思います。グリーンズカフェが各地で開催されれば、政治はもっともっと活性していくと思いますし、人々に寄り添う政治のための一歩になると思います。加藤さんが企画してくださったグリーンズカフェはモデルケースになると思います。

加藤さんに全国協議会委員になっていただき、西日本の声、私たち一般市民の声をみどりには反映してもらいたいです。

2012年7月12日 脇文香

加藤良太さんを全国協議会委員に推薦いたします。

加藤さんは私が旧みどりに入会したときすでに若手の活動家として、NGOや実行委員会で活躍されていました。

私も旧みどりの一員として共に活動する中で加藤さんの豊かな知見、NGOや大学のイベントを企画実行し成功に導いた手腕、みどり実行委員としての真摯な姿勢を目の当たりにし、信頼と尊敬に値する人物であると確信するにいたりしました。

私は人物の面からも能力の面からも加藤さんが全国協議会議員にふさわしいと判断し推薦いたします。

2012年7月9日 山口 龍児